第２回北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会
議事要旨

日時：令和 6 年 2 月 14 日（水）13 時 30 分～15 時 00 分
場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口　7 階カンファレンスルーム７G

第２回　北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会　次第　【別紙 1】
資料 1：北上川下流自然再生計画書（素案）〔概要〕
資料 2：北上川下流自然再生計画書（素案）
資料 3：欠席した委員の意見
資料 4：河川協力団体への Goodjob 賞：北上川水系のヒヌマイトトンボ保全活動
参考資料：第１回北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会 議事要旨

議事１：北上川下流自然再生計画（素案）について（資料 1,2,3）

※検討の背景として、地域の生態系基盤、原風景、生業の場でもある北上川のヨシ原は震災以降に減少傾向が見られ、震災から 10 年以上経過しても回復していない。また、東北地方で唯一かつ北限のヒヌマイトトンボの生息環境が広域的な地盤上昇などのため悪化している。

・計画の必要性の根拠として、北上川水系汽水域のヨシ原とヒヌマイトトンボ生息適地の分布の将来予測結果を説明した。
・第１回委員会おいて出された目標設定、モニタリング調査等に関する意見を踏まえて加筆した部分について説明した。

・将来予測については以下の質問があった。
　・ヒヌマイトトンボ生息適地の将来予測の前提となるヨシ原の将来予測では、地盤上昇による変化は分かるが、水の流れの影響や盤下げの対策効果も含めてのシミュレーションになっているのか。

・目標設定については以下の意見があった。
　・治水の再整備事業が完了した平成 20 年頃の環境を目標としているが、その当時の環境を整理して、方向性を明確にする必要がある。なお、オブザーバーからは、地域住民の感覚としては、震災前の平成 20 年頃にヨシ原が面積的にも最も広がっていたという情報があった。
　・ヨシ原の面積を目標とするときに、茅葺き屋根は減少している中でヨシの社会的なニーズ、ヨシ原の生態系機能、地盤上昇の影響を考慮する必要がある。
　・ヨシ原の地域社会との関わりについては、北上川以外の地域の事例や傾向、東北地

方では岩木川の状況も参照してとりまとめるとよい。

・ヨシ原の生態系機能として、物理的な水環境面では水質浄化が考えられ、生物面では生息場として，ニホンウナギは稚魚だけでなく成魚も、ヤマトシジミについては一生を通じて、鳥類に関しては渡り鳥だけでなく留鳥の生息場になっている。

・ヨシ原と地盤上昇の折り合いについては、今後 20 年の間にその時々の発想を取り入れながら加筆いただくことも重要である。

・ヒヌマイトトンボの生息適地は、面積以外の評価指標があるとよい。

・目標における河川環境には，より具体的な表現を示すべきである。また資料中の目標とする河川環境のイメージ図は、より分かりやすさが求められる。

・モニタリング調査について

・他河川ではクズやフジ等が繁茂している場合があり、今後 20 年間の変化は不確実でもあるので、河川水辺の国勢調査の結果の活用では在来種の動向も考慮した計画を立てておいた方がよい。

・推進体制と波及効果については以下の意見があった。

・ヨシ原再生に対する地域の気運は、北上川河口では高まっているが、より上流の地域の方々への周知、働きかけが必要と思う。道の駅でのイベントの開催等、小学校をターゲットとした学習の場を提供し、ヨシ原へ意識を向けてもらう取り組みが必要と思う。

・地域イベント、環境教育の場の提供、住民への意見聴取等、自治体としてこの計画に協力できたらと考えている。

以上は、当日欠席した委員、オブザーバーからの情報・意見も含む。

議事 2：今後の予定について【資料 1】

・事務局から、今年度の河川水辺の国勢調査において植生図を更新しており、第 3 回委員会はこれを基に情報を再度整理する報告があった。

議事 3：情報提供【資料 4】

・事務局から、ヒヌマイトトンボの保全活動をしている宮城昆虫地理研究会に GoodJob 賞という事務所の表彰と記者発表を行った報告があった。

以上